

# 2

## 将来設計(キャリアプラン)と準備について

### 希望進路..... 18

#### 民間企業から公務員へ進路希望の変化

「民間企業」希望：2008年度：46.3%→2009年度：41.7%  
「公務員」希望：2008年度：7.6%→2009年度：10.7%

### 進路決定時期..... 20

#### 半数近くの学生は、大学入学後に進路を決定

学部学生は41.3%、大学院学生は58.1%

### 将来設計..... 21

#### 将来の進路への不安と大学への期待

「やりたいことが見つからない」22.7%、「進路先が絞りきれない」29.6%

### 将来設計への準備..... 23

#### 学業に励むことが将来設計へつながる

「学問・研究に励む」：53.8%、「語学習得」39.6%

### キャリアセンター利用..... 24

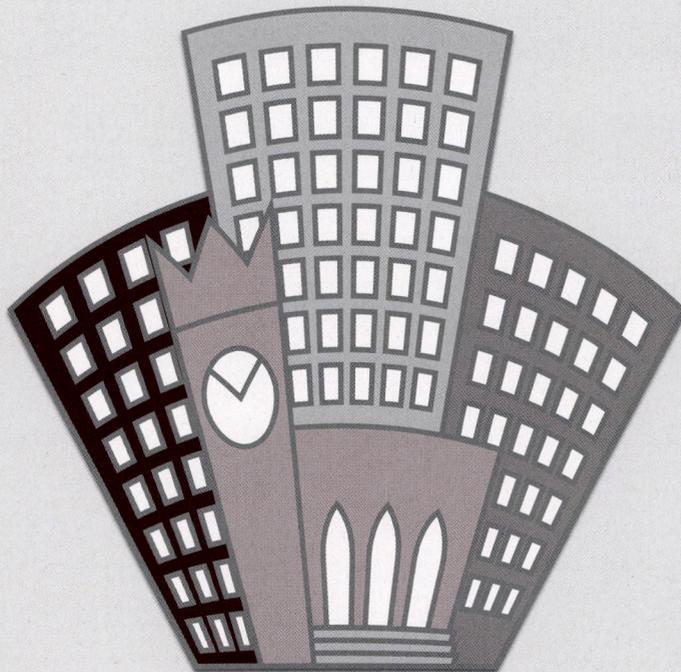
#### 4年生の半数近くがキャリアセンターを利用

4年生46.3%、修士課程学生21.0%

### インターンシップ..... 25

#### 学生の半数以上がインターンシップ参加を希望

「参加したことがある」：9.3%、「これから参加したい」：53.3%





# 民間企業から公務員へ 進路希望の変化

希望進路

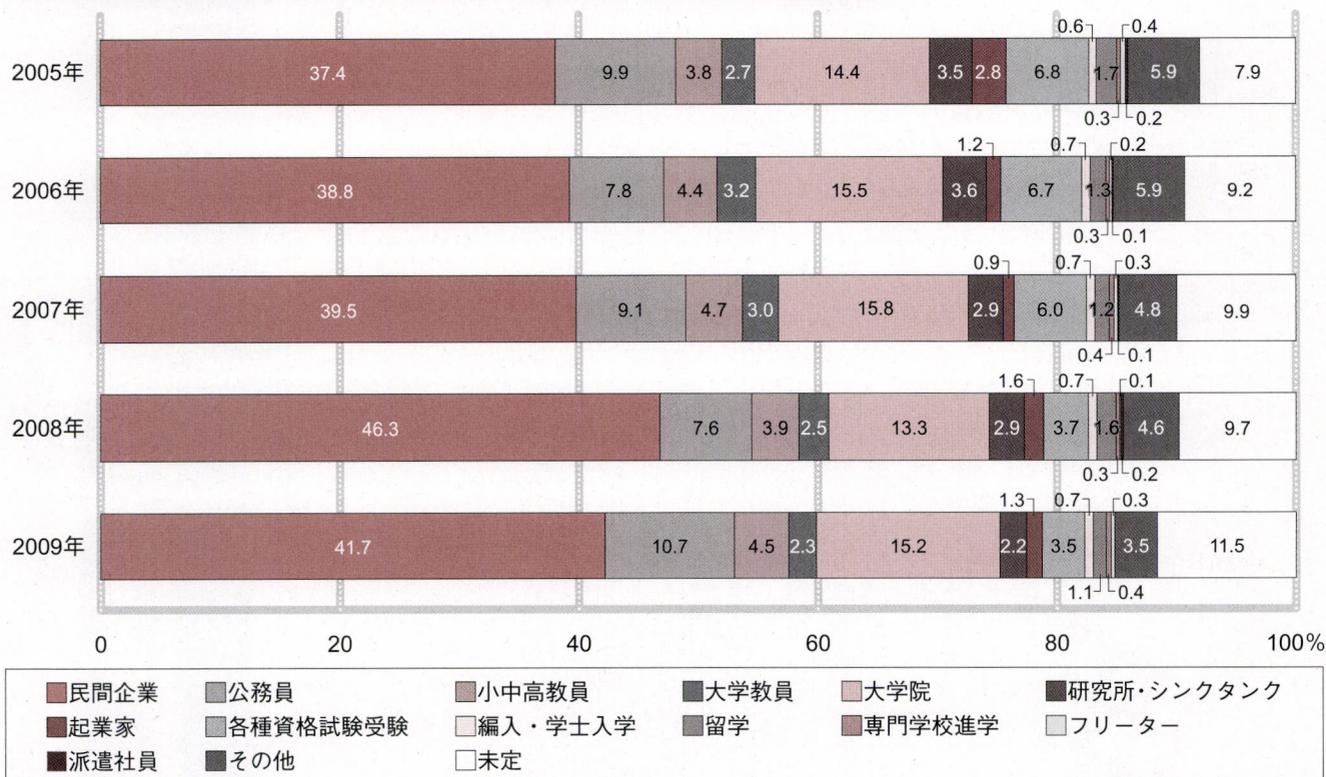
**POINT**

「民間企業」希望:2008年度: **46.3%** → 2009年度: **41.7%**  
 「公務員」希望:2008年度: **7.6%** → 2009年度: **10.7%**

卒業後の進路希望先として、「民間企業」を希望する学生の比率は2008年に46.3%と大幅な伸びを示しましたが、2009年では揺り戻しの効果により41.7%となり、2007年以前と同等の比率に戻りました。この傾向は学部・研究科とも共通であり、学部で41.6%、研究科で42.8%となっています。「民間企業」への希望が減った分、「公務員」を希望する学部学生が11.3%（研究科で10.7%）、「大学院」への進学を希望する学部学生が16.2%（同15.2%）と伸びています。「大学院」希望の比率は、2007

年度以前の比率と同程度ですが、「公務員」希望の比率は2005年以降の調査で最も高い比率となっています。また、進路希望先が「未定」の学生の比率が11.5%となり、過去5年間の中で最も高い比率となりました。「民間企業」から「公務員」や「大学院」進学への進路希望先の変化は、昨今の景気後退による就職状況の変化や進路先に対する学生の不安感が少なからず影響していると考えられます。

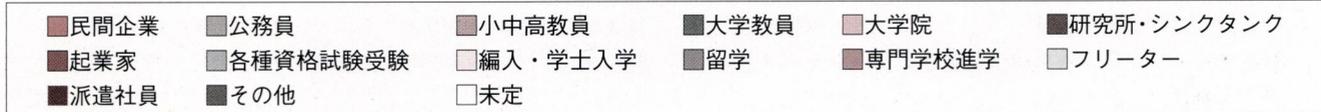
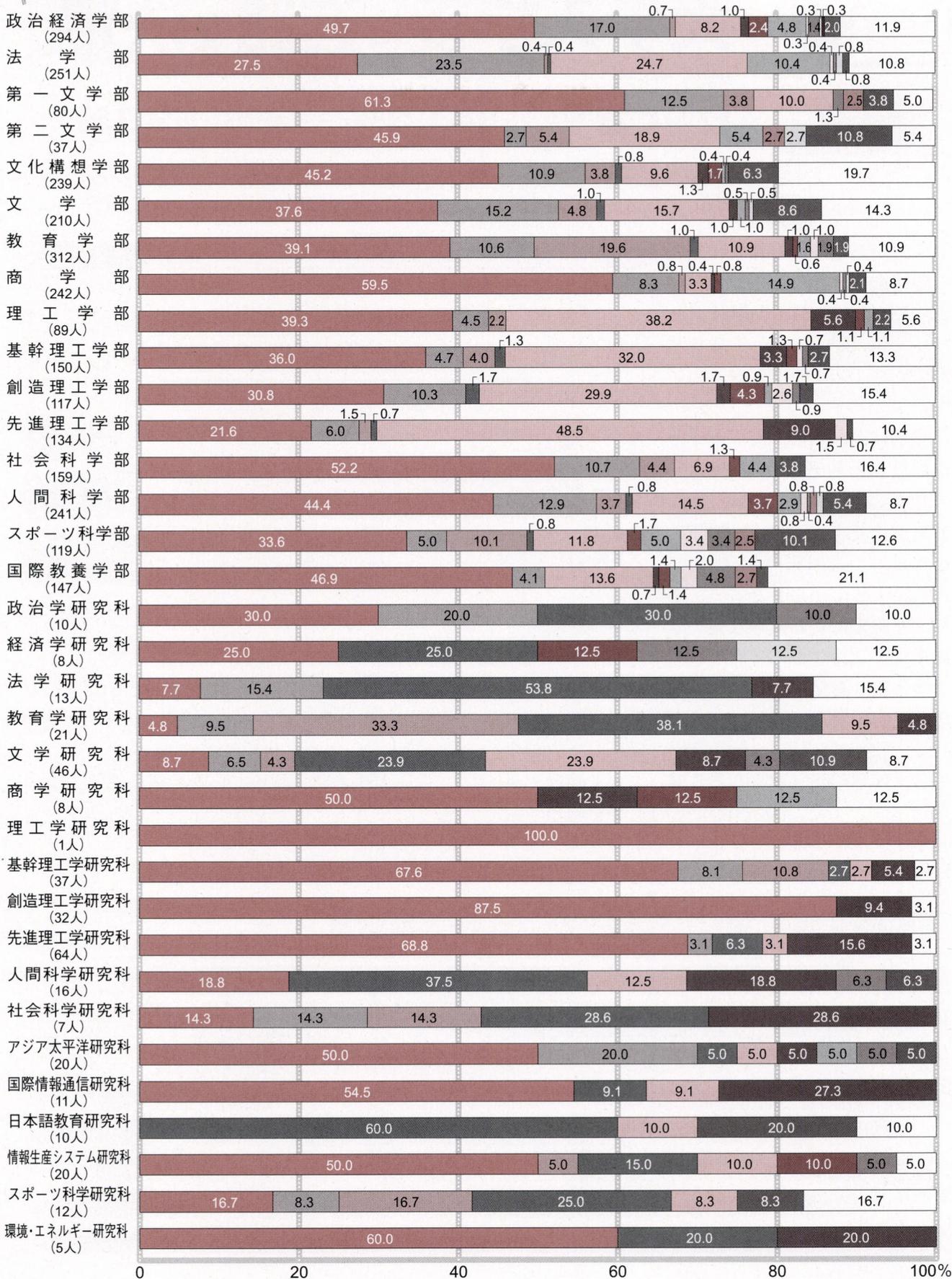
学部・研究科卒業後の進路はどうしたいと考えていますか？ 経年変化



一方、学部・研究科別に進路希望を見ても、多くの学部・研究科で「民間企業」を希望する学生が減少しており、6学部、6研究科で6ポイント以上の減少が見られました。また、「公務員」を希望する学生は、文系のほとんどの学部で増えており、理系の学部でも若干の増加が見られました。

学生の進路希望先は景気状況や就職状況に左右される面があり、単年度の傾向と同時に経年的な傾向として捉える必要があると考えられます。過去5年間の進路希望先の推移を見た場合、全体としてさほど大きな変化はないように思われます。

学部・研究科卒業後の進路はどうしたいと考えていますか？ 所属箇所別





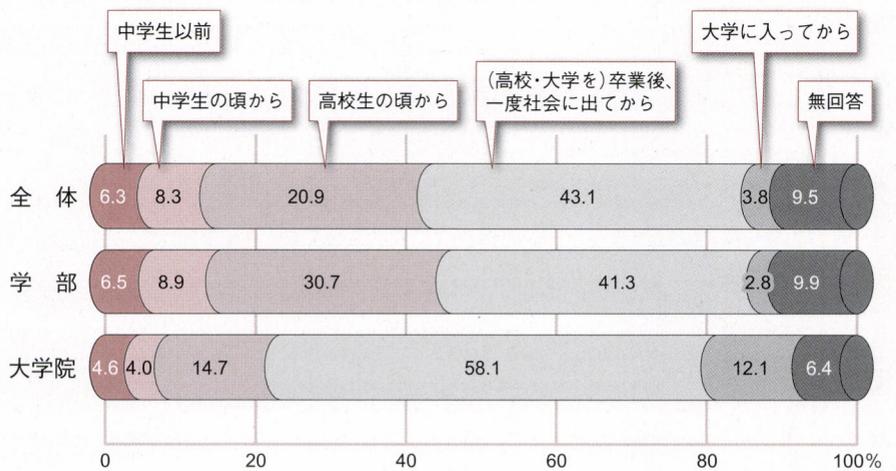
# 半数近くの学生は、 大学入学後に進路を決定

進路決定時期

**POINT** 学部学生は**41.3%**、大学院学生は**58.1%**

学生が卒業後の進路を決定した時期を見ると、半数近くの学生の43.1%の人が「大学に入ってから」、29%の人が「高校生の頃から」、8.3%の人が「中学生の頃から」と答えています。進路別に見てみると、「小中学校教員」を希望する学生の48%が「小学生・中校生の頃」から進路を決定しているのに対し、それ以外の進路先は「高校生・大学に入ってから」と答えており、進路先による大きな違いは見られません。

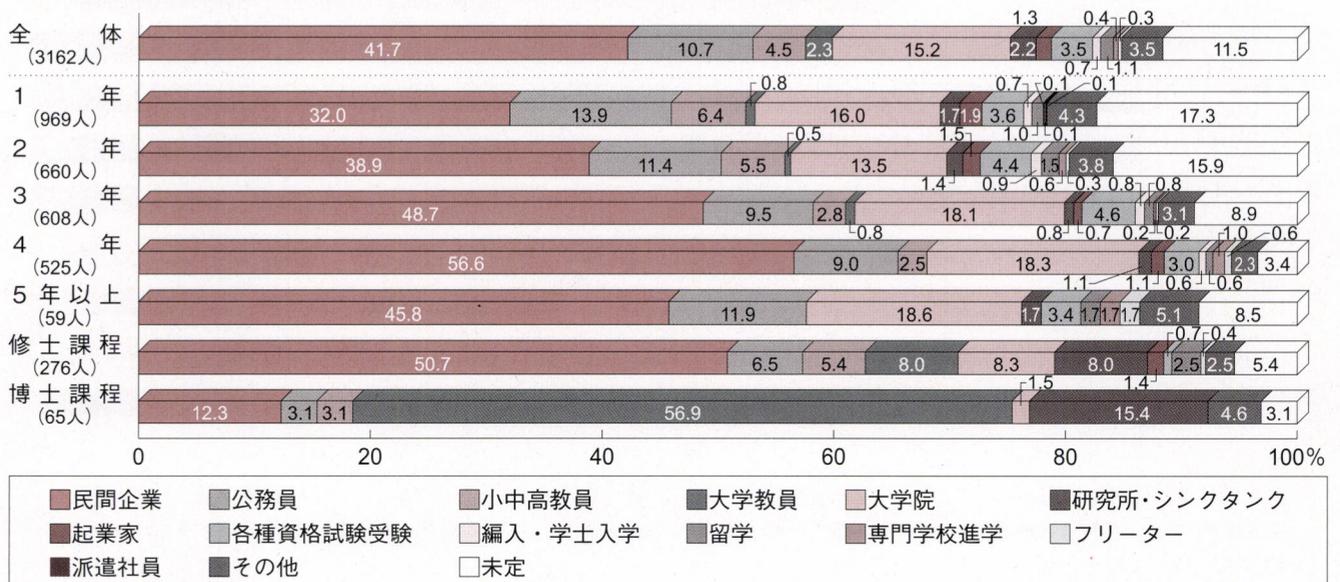
進路を考え始めたのはいつくらいからですか？ 学部・大学院別



学年別・進路別に見てみると学年が上がるごとに「民間企業」を志望する学生が増えていくのに対して、「公務員」や「小中学校の教員」を志望する学生は学年が上がるごとに減っていく傾向が見られます。また、「大学院」への進学を希望する学生は3年生で増え、4年生でも同程度の比率を保っています。1年生の時はさまざまな進路先を

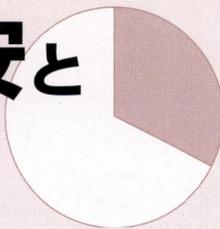
希望していますが、4年生になると6割近くの学生が「民間企業」を希望するようになっていきます。進路先を具体的に決定する時期が近づくにつれて、1年生の頃に抱いていた希望の進路先が、好むと好まざるに関わらず変化している様子が見てとれます。

学部・研究科卒業後の進路はどうしたいと考えていますか？ 学年別





# 将来の進路への不安と 大学への期待



将来設計

**POINT**

「やりたいことが見つからない」 **22.7%**  
「進路先が絞りきれない」 **29.6%**

将来の進路について不安になる要因として、学生の22.7%が「やりたいことが見つからない」、29.6%が「進路先が絞りきれない」をあげており、6割近くの学生が将来の進路を決めかねている状況が見てとれます。また、学生の28.8%が「志望する進路先に進む能力がない」、25.4%が「進路先でやりたいことが出来るか分からない」をあげており、6割近くの学生が希望する進路と現実とのギャップに悩んでいる状況がみてとれます。学年別に見てみると、1年生から3年生までは、将来の不安要因はほぼ同じ傾向にあります。進路決定が身近な問題となる4年生になると、「進路先が絞りきれない」は減少しますが、その代わりに「希望する進路で自活できるか心配」が10ポイント以上増えており、学部卒業後といった、より

現実的なことへの不安へ変化しているのが見受けられます。

将来の進路への不安に対して大学に期待することとして、学部学生の36.3%、大学院学生の34.4%が「キャリアプラン設定のアドバイス・教育」を挙げています。特に、「やりたいことが見つからない」「志望する進路がしぼりきれない」「志望する進路先の情報が少ない」を不安要因に挙げている学生にこの傾向が見られます。また、大学に期待する項目として、学生の26.0%が「キャリアプラン実現のための大学教育の利用方法」を、20.2%が「インターンシップ」を、23.2%が「資格取得」を、27.1%が「企業情報」を、23.1%が「OB・OGの進路に関する情報」を挙げており、これらの項目は進路への心配要因の違いによらない傾向があります。

将来の進路についてどのようなことが不安になりますか？ [複数選択可] 学年別



左は複数回答の延べ数、右は実際の回答者数

(%)

- やりたいことが見つからない
- 志望する進路先の情報が少ない
- 性別・年齢等、自分の能力以外の面で判断され選考に落ちる
- 志望する進路で自活できるか心配
- 志望する進路がしぼりきれない
- 志望する進路先に進む能力がない
- 進路先でやりたいことが出来るか分からない

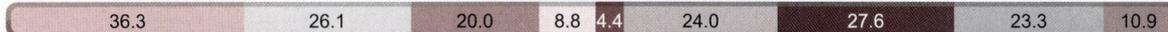
将来の進路についてどのようなことが不安になりますか？ [複数選択可]

凡例 将来設計についてどのような情報・サービスを大学から提供してほしいですか？ [複数選択可]

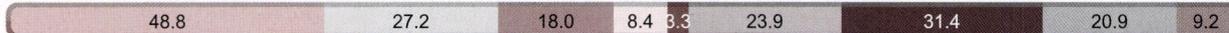
学部

全体 (8,617件) (4,470人)

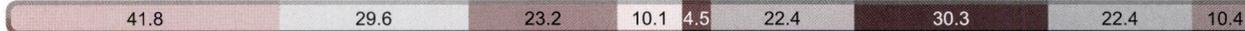
大学に提供して欲しいサービス



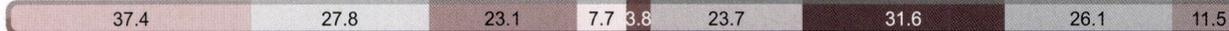
やりたいことが見つからない(1,272件) (666人)



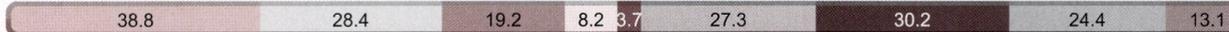
志望する進路がしぼりきれない(1,692件) (869人)



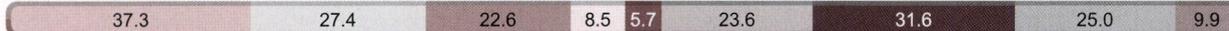
志望する進路先の情報が少ない(902件) (468人)



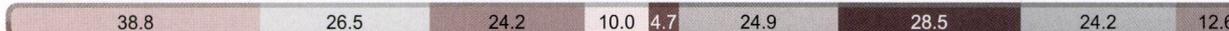
志望する進路先に進む能力がない(1,560件) (807人)



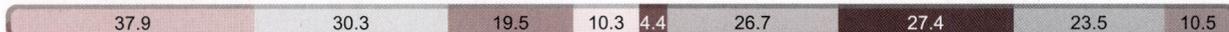
性別・年齢等、自分の能力以外の面で判断され選考に落ちる(406件) (212人)



進路先でやりたいことが出来るか分からない(1,358件) (699人)



志望する進路で自活できるか心配(1,427件) (749件)



進路についての不安

大学院

全体 (912件) (486人)

大学に提供して欲しいサービス



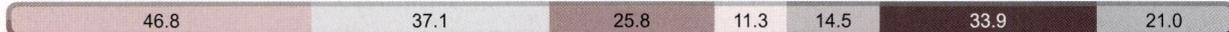
やりたいことが見つからない(77件) (40人)



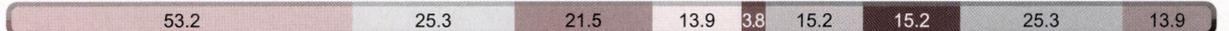
志望する進路がしぼりきれない(125件) (66人)



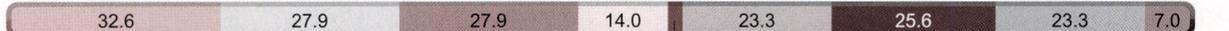
志望する進路先の情報が少ない(118件) (62人)



志望する進路先に進む能力がない(148件) (79人)



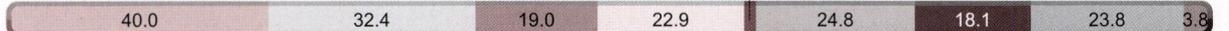
性別・年齢等、自分の能力以外の面で判断され選考に落ちる(79件) (43人)



進路先でやりたいことが出来るか分からない(169件) (91人)



志望する進路で自活できるか心配(196人) (105件)



進路についての不安

左は複数回答の延べ数、右は実際の回答者数

- キャリアプラン設定のアドバイス・教育
- キャリアプラン実現のための大学教育の利用方法
- インターンシップ
- 留学
- ボランティア
- 資格取得
- 企業情報
- O・B・O・Gの進路に関する情報
- 公務員情報

コラム

キャリアセンター

キャリアセンターは、就職に対する支援のみでなく、社会生活の中で自分で考え、行動できるキャリア形成も支援します。皆さんも低学年のうちから積極的にキャリアセンターを利用してください。特に低学年のうちに、キャリアビルドセミナー（2008年新設）、公務員・教員キックオフガイダンス、キャリア講座、自己分析ワーク、インターンシップガイダンス等に参加してください。

■キャリアセンター  
戸山キャンパス学生会館3F (30号館)  
【URL】 <http://www.waseda.jp/career>

■インターンシップ・オフィス (キャリアセンター内)  
【URL】 <http://www.waseda.jp/career/internship/office/>  
【開室時間】 授業期間中  
平日：9:00～18:00 土曜日：9:00～17:00



# 学業に励むことが 将来設計へつながる

将来設計への準備

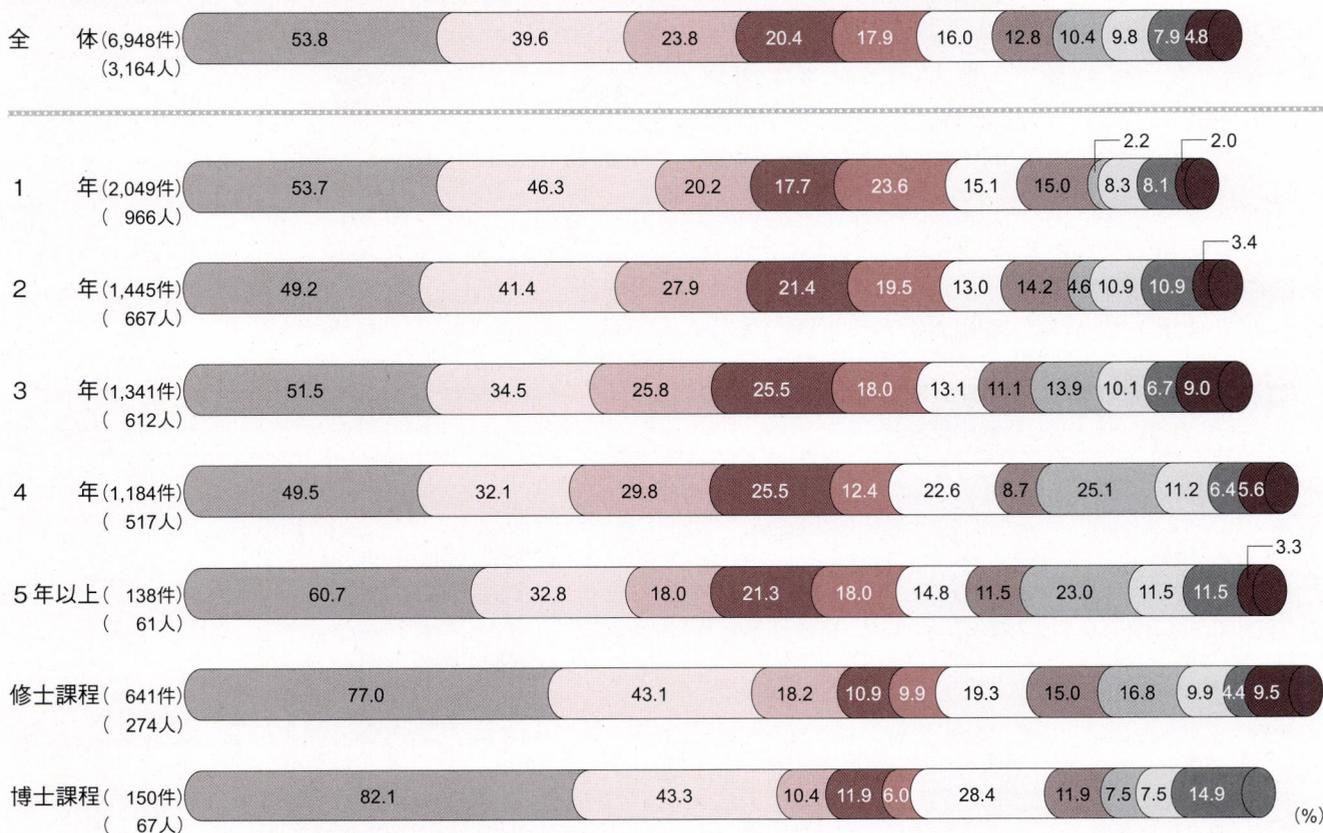
**POINT**

「学問・研究に励む」: **53.8%**、「語学習得」 **39.6%**

将来設計に向けての準備として、「学問・研究に励む」と答えた人が学部学生の51.0%、大学院学生の76.9%で最も多く、次いで「語学習得」と答えた人が学部学生で39.2%、大学院学生で42.5%いました。この2つの項目は学年によらず比率が高い項目となっており、将来設計に向けた準備として学業をはじめとして語学やコンピュータ技術などのスキルアップを第一に考えている学生の意識が見てとれます。学年別で見ると、「企業研究・就職試験対策」と答えた学生は、3年生以上で多くなり、また「人脈作り、OB・OG訪問」と答えた学生は4年生で多く見られます。また、

「インターンシップ」と答えた学部学生の3年生で9.0%、修士課程で9.5%であり、ほかの学年より顕著に多いことがわかります。これらの結果から、就職に向けた準備が3年生から始まること、就職活動に入る前に「インターンシップ」を体験しておきたいと思っていること、また就職を目指す学生にとって「人脈作り」が重要であるとの意識が見えてきます。また、大学院学生は修士課程、博士課程ともに、将来設計に向けての準備として「学問・研究に励む」と答えた学生が顕著であり、研究に励むことが将来につながると考えています。

将来設計に向けて、現在どのような準備をしていますか？ [複数選択可] 学年別



上段は複数回答の延べ数、下段は実際の回答者数

- 学問・研究に励む
- 語学習得
- 資格試験対策
- 課外活動の充実
- 特に準備はしていない
- 人脈作り、OB・OG訪問
- コンピュータ技術習得
- 企業研究・就職試験対策
- その他
- 留学
- インターンシップ



# 4年生の半数近くが キャリアセンターを利用

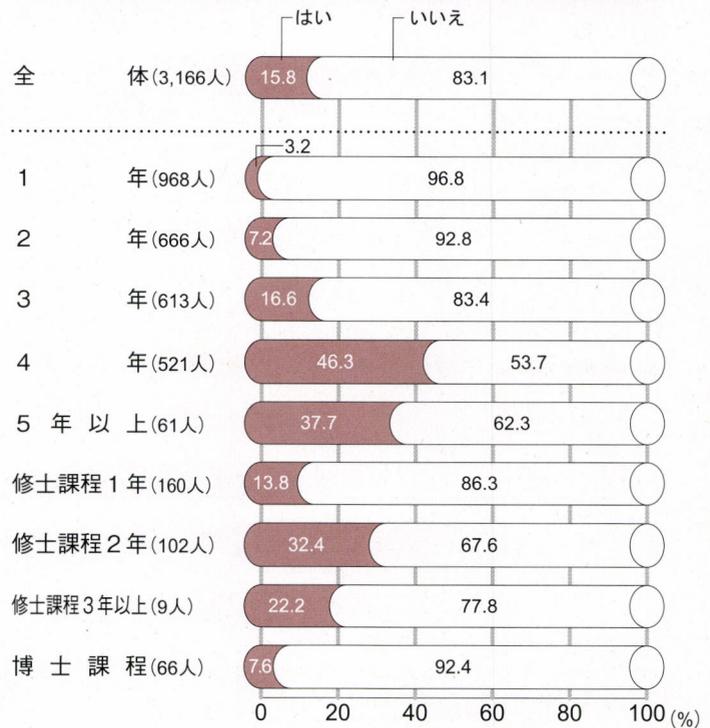
キャリアセンター  
利用

**POINT** 4年生 **46.3%**、修士課程学生 **21.0%**

進路決定に向けて「キャリアセンターやそのサービスを利用した」と答えた学生は学部学生全体では15.6%ですが、4年生では46.3%、5年生以上では32.4%の学生がキャリアセンターを利用しています。また、大学院学生では、修士課程の2年生の21.0%がキャリアセンターを利用していると答えています。就職活動を行う上で、学生の半数近くがキャリアセンターを利用していることがこの調査結果から見てとれます。「キャリアセンターを利用した」と答えた人の中で、「就職活動に関するガイダンス・講座・ミニセミナー等への参加」が45.6%と最も多く、次いで「進路設計に関するガイダンス・講座等への参加」が35.7%、「企業・求人情報のチェック」が28.0%、「OB・OG名簿、企業別OB・OG就職活動情報のチェック」が26.6%となっています。他方、「キャリアセンターを利用しなかった」と答えた人の理由として、「どのようなサービスがあるか知らない」が73.0%、「場所が分からない」が53.6%となっています。この結果からみると、キャリアセンターの活動内容を知らない学生が多くいると推察されます。キャリアセンターの活動内容をより多くの学

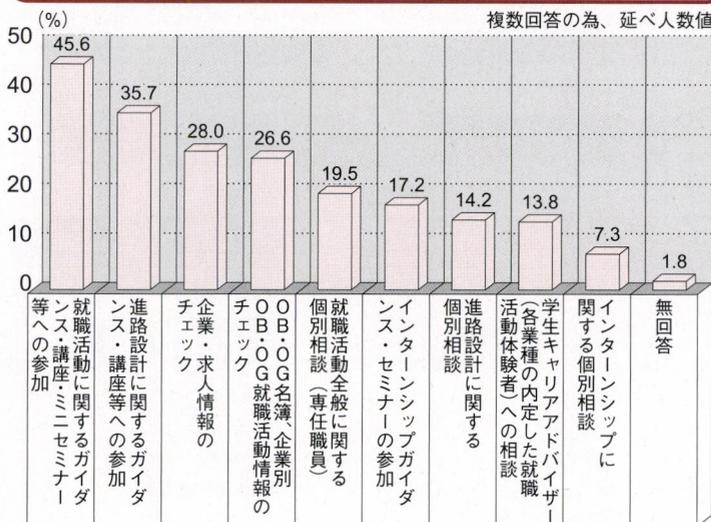
これまであなたはキャリアセンターやそのサービスを利用したことがありますか？

学年別

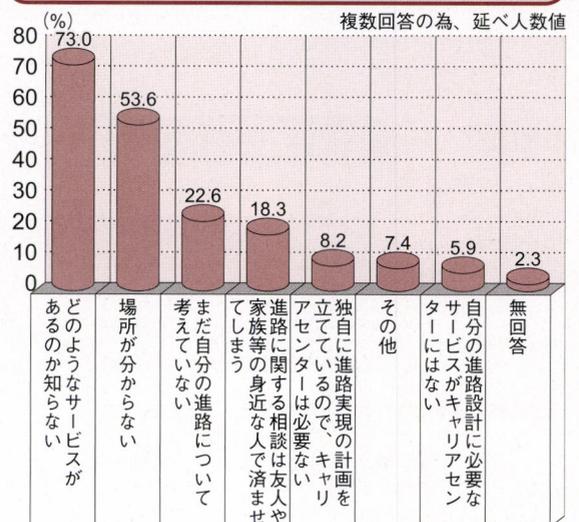


生に知ってもらうために、学生向けの広報活動を今後とも強化していく必要があると考えられます。

「はい」と回答した人にお尋ねします。利用したのはどのような内容ですか？ [複数選択可]



「いいえ」と回答した人にお尋ねします。利用しないのはどのような理由からですか？ [複数回答可]





# 学生の半数以上が インターンシップ参加を希望

インターンシップ

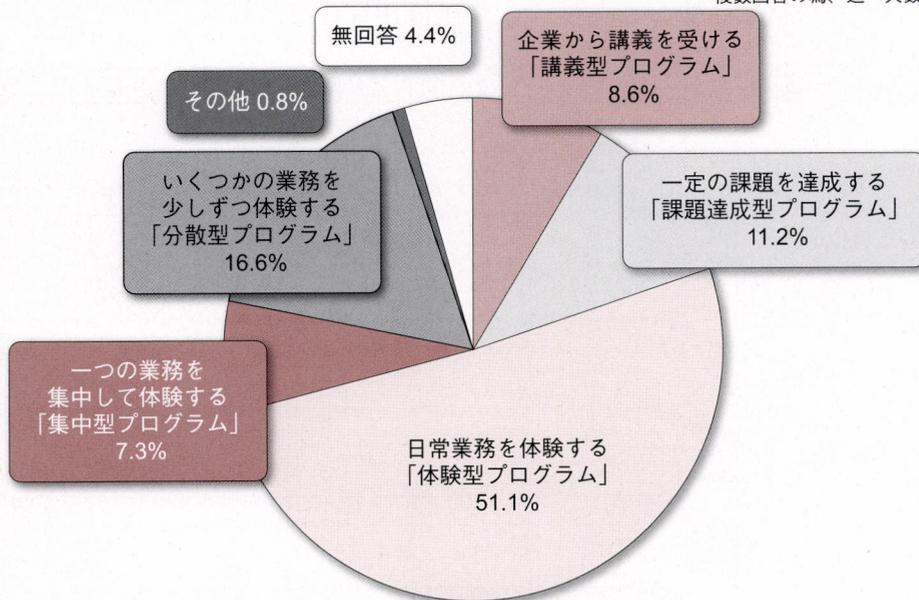
**POINT**

「参加したことがある」: **9.3%**、  
「これから参加したい」: **53.3%**

インターンシップに関して、「参加したことがある」と答えた学生は8.8%、「これから参加したい」と答えた学生は50.7%に達し、半数以上の学生がインターンシップの参加を希望しています。体験したいインターンシップのプログラムとしては、日常業務を体験する「体験型プログラム」を希望する学生が51.1%で最も多く、次いでいくつかの業務を少しずつ体験する「分散型プログラム」16.6%、一定の課題を達成する「課題達成型プログラム」が11.2%となっています。また、インターンシップに参加したい理由としては、「進路選択に役立つ」と「就職活動の一環」など進路・就職に関連するものと、「社会人としての常識やマナーを

もしあなたがインターンシップを行うとすれば、どのようなプログラムを希望しますか？ [複数選択可]

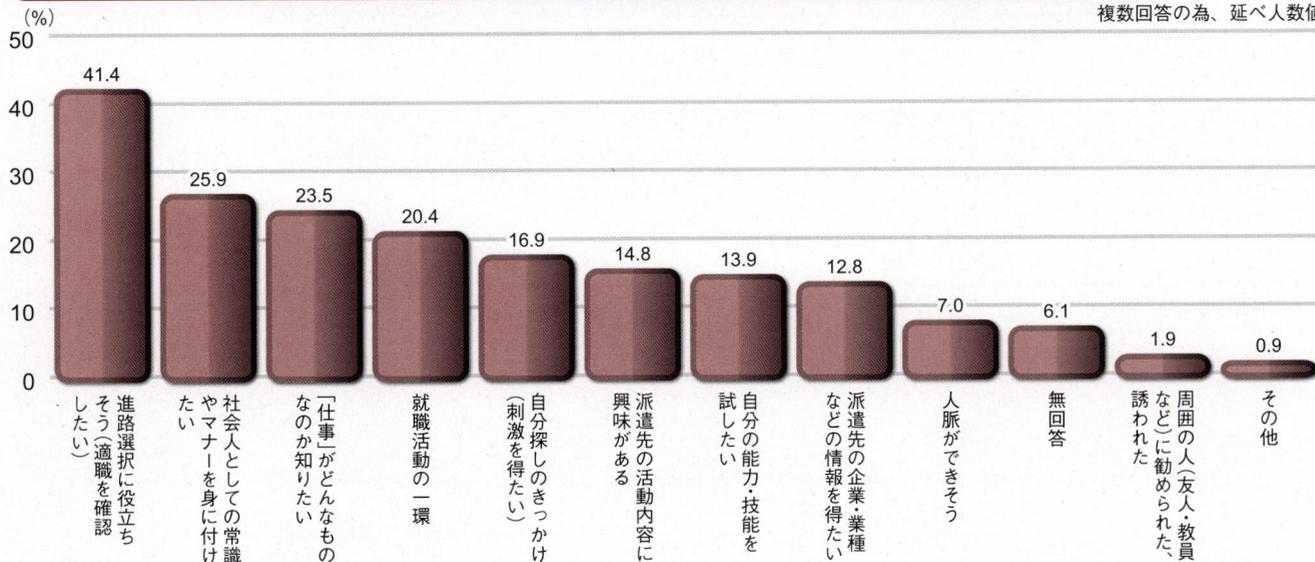
複数回答の為、延べ人数値



身に付けたい」や「仕事がどんなものか知りたい」など社会人としての体験に関連する項目を挙げています。

インターンシップに参加したことがある、これから参加したいと答えた人にお尋ねします。インターンシップに参加した(したい)のは、どのような理由からですか？ [複数選択可]

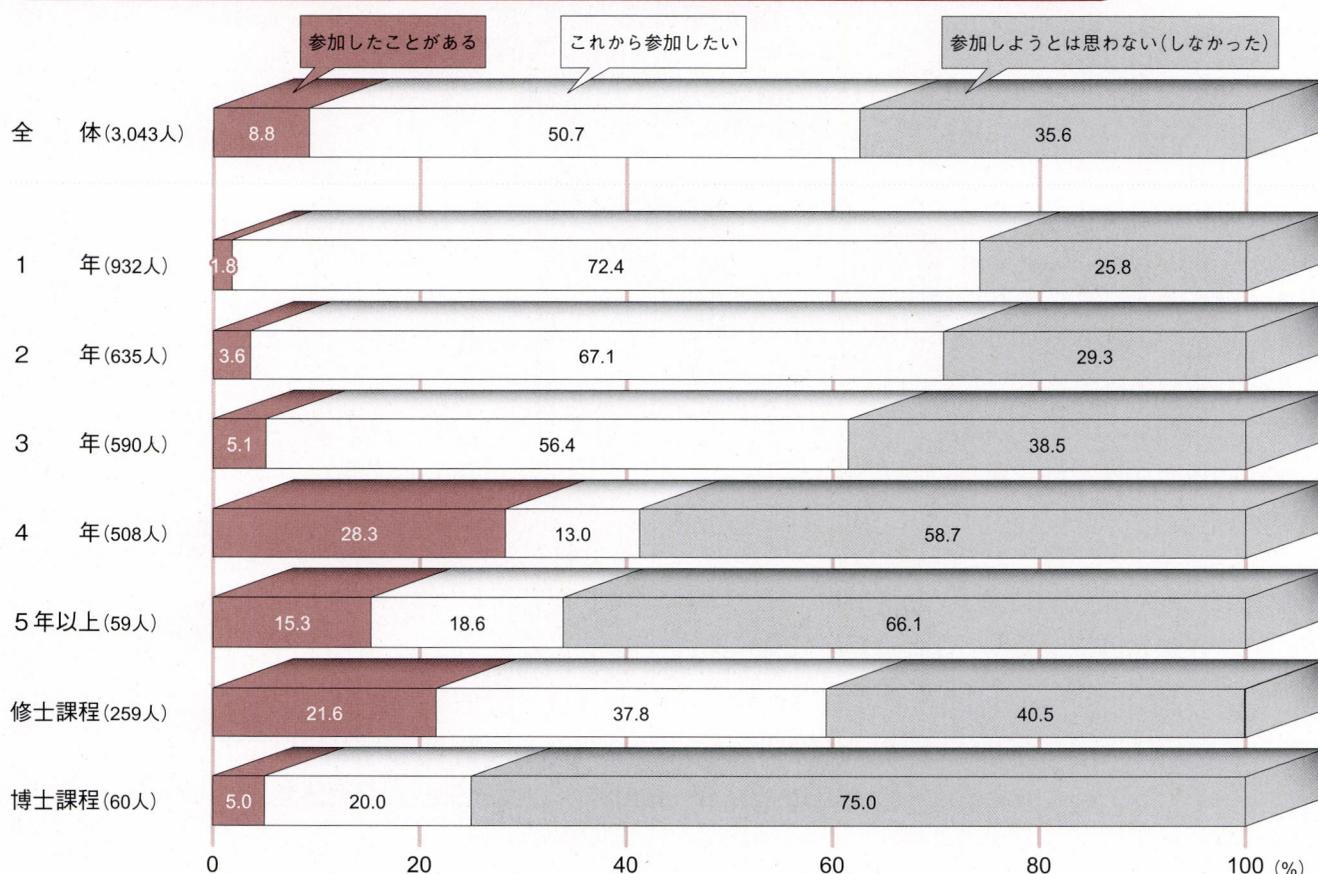
複数回答の為、延べ人数値



学年別で見ると、インターンシップに参加したことがある学部学生は、4年生で28.3%、修士課程の学生で21.6%となっており、多くの学生が4年生、あるいは大学院でインターンシップに参加していることが分かります。「これから参加したい」を含めてインターンシップに参加したい学生は1年生が74.2%で最も多くなっていますが、学年が上がるにつれてその比率が減少する傾向にあります。特に、4年生では、インターンシップに参加したことがある学生は28.3%いますが、逆に「参加したことがある」と「これから参加したい」を合計した参加を希望する学生の比率は

41.3%となり、3年生までと比べると少なくなっています。4年生の中で参加しようと思わない人の理由としては、「インターンシップに割く時間がない」が28.5%「インターンシップに興味がない」が18.1%、「インターンシップが有効だと思わない」が13.2%となっています。インターンシップへの参加を希望する学生の比率と実際に参加した学生の比率には相当のギャップがあり、今後は3年生以下の学生を対象としたインターンシップの参加を促進していくプログラムが必要ではないかと考えられます。

インターンシップ（学内外のプログラム問わず）に参加したことがありますか？ 学年別



インターンシップに参加しようとは思わない(しなかった)と答えた人にお尋ねします。インターンシップに参加しようとは思わない(しなかった)のは、どのような理由からですか？

4年 (288人)

